

- ・対象地域：稚内市（抜海地区）
- ・地域人口：稚内市 36,380人(H27年 国勢調査)
うち抜海地区人口 51人（H27年 国勢調査）
- ・漁港：抜海漁港(第4種)
- ・漁業就業者：稚内市 826人、稚内漁協 476人(H25年 漁業センサス)

抜海地域マリンビジョン(稚内漁協地区)

～ 利尻富士を望む自然共生の地域づくりの推進～

(平成31年3月改訂)

拠点漁港のタイプ
都市漁村交流拠点漁港
稚内港補完避難港

拠点漁港



第4種 抜海漁港



利尻富士

地域の資源等

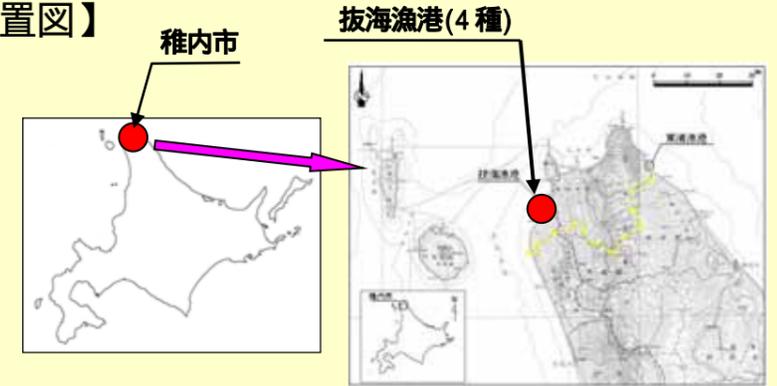


ノシャップ岬



活ホッキ即売会

【位置図】



現状と課題

現状	漁業生産に特化
	漂砂・飛砂による生産・生活面の被害
	ゴマフアザラシによる漁業被害
課題	過疎高齢化の進行と地域活力の低下
	漁港既存ストックの有効活用
	資源管理とつくり育てる漁業の強化
	漁港内観光振興と漁業利用との調整
	観光資源の付加価値化
	地域防災対策の推進

地域の目指す姿

ビジョンの特徴

利尻礼文・サロベツ国立公園内に立地した優れた景観・自然環境とサケ釣り遊漁・既存の民宿立地等のポテンシャルを活用した独自性ある自然共生型地域観光を、全国的知名度を持つ稚内広域観光ネットワークの中で再構築する。また、多様な沿岸漁業の立地と既存の大規模蓄養施設（抜海漁港）等の既存ストックを活用した足腰の強い沿岸漁業経営を形成するとともに、自然共生型観光や旧抜海小中学校の有効的な利活用を通じて、過疎高齢化の進む地区の活力と元気を回復する。

多様で足腰の強い沿岸漁業の振興

- ・既存ストックを前提とした沿岸漁業の体制強化

自然共生型交流観光の振興

- ・漁港内観光振興と漁業利用との調整

交流促進をテコとした浜の元気の再構築

- ・安全・安心な生活環境の形成と浜の元気の再構築

地域マリンビジョン協議会

《協議会メンバー》

- ・稚内漁業協同組合
- ・抜海漁港利用部会
- ・抜海町内会
- ・稚内観光協会
- ・抜海郵便局
- ・行政関係者

地域資源(特徴)

わが国最北端のロシア・サハリンを含めた交流窓口
海洋交流と漁業の歴史的・文化的資源の蓄積

【主な地域資源】

利尻礼文サロベツ国立公園、ノシャップ岬からの沿岸線の連続、宗谷管内唯一の不凍港（抜海漁港）、蓄養施設、遊魚

漁港の将来像

- 漂砂・飛砂・防災対策
- 既存蓄養施設の利活用
- 地域衛生管理体制の確立
- 就労環境の改善
- 自然共生型漁港の形成
- 災害に強い地域づくりへの対応

ビジョン実現のための主な取組み

- ホッキガイ生息調査と既存蓄養施設活用に関する議論と実践
- マウンドや消波ブロック等の増殖場の整備
- 抜海漁港の衛生管理対策の強化による地場水産物のブランド化
- 水産物安定供給のため漁港施設の機能保全・強化
- ゴマフアザラシ対策、港内釣りの漁港利用ルールの作成
- 抜海地区防災ハザードマップ作成、防災避難情報システムの構築 等